

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業名	既成市街地地区公園施設新設事業			会計	款	項	目	大事	小事
				01	08	04	07	02	58
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）		主管課	みどりの課				
施策	1-1	生態系に配慮した公園・緑地・水辺等空間の整備・管理		主管課長	本田 英師				

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	既成市街地の公園施設	意図	市民が憩い安らげる場を提供するため、適切な公園施設の整備を行う。
事業内容	既成市街地内の公園緑地を整備し、地域住民の利便に供する。			
事業開始から現在までの状況変化	市民の公園に対する要求が高度化してきている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成28年度	平成29年度	平成30年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	公園整備件数	2	1	4	件	↑↑↑
②							
③							
④							
⑤							
⑥							
指標で表すことができない定性的な成果						目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）	
事務事業のコスト		平成28年度	平成29年度	平成30年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		16,349,300	19,210,400	21,807,200			
事業費(b)(円)		12,916,800	15,854,400	18,511,200			
うち一般財源		12,916,800	15,854,400	18,511,200			
職員給与費(c)(円)		3,432,500	3,356,000	3,296,000			
人役・職員(人)		0.50	0.50	0.50			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)							
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	I 拡 充 （事業を拡大して継続すべき）					

(2) 事務事業の業務改善について

①H30当初の改善計画(Plan)	自治会意向を確認しながら整備を行う。	③取組における課題(Check)	地域バランスを考慮しながら対応する必要がある。
②H30に実施した取組(Do)	東部近隣公園の複合遊具を刷新し、子供がより楽しめる整備を行った。	④課題に対する今後(H31~)の改善計画(Action)	公園の利用状況や自治会からの意向を勘案し、市民ニーズにあった公園整備をする。